

議 事 録

会議名	令和４年度第１回介護保険運営協議会
開催日時	令和４年６月６日（月）午後３時から４時まで
開催場所	守山市福祉保健センター（すこやかセンター）３階 講習室
委員出席者	清水委員（会長）・津田委員・井上委員・田附委員・本條委員・兼松委員 山中委員・山岡委員・石原委員・松山委員・藤本委員・淵上委員・奥村委員 （順不同）
欠席者	小川委員・小西委員（順不同）
事務局	（健康福祉部） 沖田理事・高橋次長・池田次長（地域包括支援センター所長） （介護保険課） 西田課長・森藤係長・川崎係長 （長寿政策課） 上本課長・吉野係長・徳永主事 （地域包括支援センター） 大寄係長・中島主任保健師
会議の次第	１ 開会 ２ 協議事項 （１）第９期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について 資料１ ３ 報告事項 （１）令和４年度第１回守山市地域包括支援センター運営協議会での会議内容の報告について 資料２ ４ 閉会
議事録の作成方法	☒ 要点筆記 ☐ 全文記録 ☐ その他
会議資料	◇ 令和４年度第１回守山市介護保険課運営協議会次第 ◇ 守山市介護保険運営協議会委員の所属委員会 ◇ 第９期守山市高齢者福祉計画・守山市介護保険事業計画の策定について 資料１ ◇ 令和４年度第１回守山市地域包括支援センター運営協議会結果 資料２
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開
傍聴者数	０名

１ 開会

<西田介護保険課長より開会>

<委員の交代について>

守山市老人クラブ連合会代表の北村委員に代わり、松山茂委員にお願いさせていただくことになりましたので、ご紹介いたします。任期は、前任委員の残任期間で令和６年３月３１日までとなります。

<委員の出席者数の確認>

１５名中１３名の出席により、本会議は成立。

２ 協議事項

（１）第９期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について

資料１

【事務局説明 長寿政策課 吉野係長】

【質疑応答】

井上委員	<u>3 ページ 第8期策定時の重点ポイント（国）について</u> 3 つ目の項目「地域包括ケアシステムの推進」について、「地域密着型サービスの小規模化」とありますが、“小規模化”とは、質と量どちらの問題ですか。9 期に向けて、こうした“小規模化”という国からの指針がでてきた場合、市としてはこれに従い、規模を小さくするのですか。市民にとっては地域密着型のサービスは欠かせないものだと思うので、市のご意見を伺いたいです。
事務局 介護保険課課長 西田	医療介護の連携の中に地域密着型サービスの小規模化が謳われています。 大きな施設のサービスも必要であると思いますし、一方で小さな施設による地域にあった質の高いサービスの提供といった考え方など様々だと思います。 そうした中で本市としては、8 期の中では、小規模化ということは謳っておらず、高齢化は進んでいるものの、国が考える高齢化の速度に比べ、本市の高齢化の速度は緩やかであるため、現時点では小規模化をする状況には至っていないと考えています。 ですので、9 期においてこうした指針が示された場合であっても、本市の条件に応じた考え方を構築していきたいと考えています。
清水会長	英語から翻訳した際に、“分散化”と翻訳したと記憶しています。ここでは“分散化”という意味で小規模化、多機能化という言葉を使っていると思います。
田附委員	<u>4 ページ 守山市の第8期計画について</u> I T サポートについてですが、マイナポイントの活用等、システムは高度化していますが、高齢化は進んでいる現状にあります。マイナポイントを高齢者個人が使うのはハードルが高いと思うので、9 期計画では I T 化に高齢者がついていけるように、相談できる窓口についてなど、高齢者をサポートすることについて、明記してはどうですか。
事務局 健康福祉部理事 沖田	I C T のサポートにつきましては、守山市においても今年度“自治体 D X 戦略”ということで、デジタルトランスフォーメーション、いわゆるデジタル改革を打ち出し、人にやさしい、誰一人取り残されないデジタル改革を進めていく、ということになりました。その中で、地域のみなさま方が取り残されないように、I C T の技術を使った制度等について、サポートしていこうといった政策を出しています。私どももそれに倣い、計画の中にはそのようなことも盛り込んでいきたいと思ひますし、今年度からでもできること、例えばスマホの使い方等や、マイナカードや保険証の電子化ということも控えていますので、十分なサポートをしていきたいと考えています。
清水委員	非常に大事なポイントだと思います。住民に対し、迅速で的確なサービスを提供しなければなりません。 この話題に関し、イギリスの自治体でサポートセンターを設けている事例があります。様々な申請について、パソコンを使ってケアマネジャーがサポートを行うというものです。国もこれと同じような形でやっていきたいという方針になっていますが、住民はこうした急激な変化にみんな当惑すると思います。自治体や専門スタッフの十分なサポートを得たうえで、していただきたいと思ひます。
洲上委員	<u>4 ページ 守山市の第8期計画について</u> 基本目標Ⅲ(2)介護人材の確保・育成 について、非常に大切な点であると思ひます。介護人材の確保、家族介護力を高める取り組みや、老々世帯、ヤングケアラー等、実態に合わせた施策を基本的なスタンスとして、策定していただきたいです。

事務局 健康福祉部次長 池田	一人暮らし高齢者、老々世帯が増える中、介護に関心のある方や介護をされている方を対象に、介護の知識や技術を学べる「家族介護者教室」を開催しています。そのほか、介護者の介護負担の軽減、高齢者の自立支援につながる住宅改修については理学療法士がご自宅を訪問し、必要な福祉用具や住宅改修のポイントを確認させていただくような支援もしています。9期計画の中でも、検討すべき大事なポイントであると考えています。
清水会長	同じような介護の問題を抱えた高齢者のグループを作って、グループの当事者として、情報交換をすることで、介護知識や技術を共有しつつ、ストレスも発散できる場を提供することで、互いに助け合える環境が必要だと思います。 当事者や家族だけでなく、青少年にも“健康福祉教育”が今後さらに重要になってくると思います。
石原委員	<u>1 ページ 4 計画策定の進め方</u> について 令和4年度は記載の4つの調査をされると思いますが、8期はまだ1年しか経っていませんが、こういったことを調べるのですか。
事務局 長寿政策課係長 吉野	前回の調査は令和元年に実施しており、そこから3年経過しています。 各調査のうち、特に「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」「在宅介護実態調査」については、国からの指示に基づいて行っているものであり、3年毎に行うものだが、現状の守山市の施策へのニーズや潜在的な課題について、見ていきたいと思っています。
石原委員	調査は8期のみではないということですか。
事務局 長寿政策課係長 吉野	はい、以前からの調査の経年的な変化も見ていきたいと思っています。
清水会長	各調査の回収率について、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」は69.2%と高率で返ってきていますが、「在宅介護実態調査」、「事業所調査」は郵送でおよそ60%というのは、いつもこれくらいの割合ですか。
事務局 長寿政策課係長 吉野	回収率はおおむねこれくらいの値となっています。 例えば、守山市の総合計画等におけるアンケート調査においては、高齢者に限らない市民全員を対象としており、回収率はこれよりもっと低い値となっています。そのため、本計画についての回収率は高い結果であると思っています。
清水会長	逆に事業所調査やケアマネジャー調査では、回収率が少ないと思いますが、調査の手法について検討はしていますか。
事務局 長寿政策課係長 吉野	確かに、事業者調査とケアマネジャー調査について、より高い回収率を目指していく中で、実施方法についても今後の介護保険運営協議会においても議論したいと思っています。より高い回収率となるような具体的な方法があれば、それを参考にしたうえで検討していきたいと思っています。
清水会長	調査会社はプロなので、どうすれば増やすことができるのかを聞いて、コンサルタントとしても利用していただきたいと思っています。
洲上委員	こうしたアンケート調査について、労力はかかりますが、直接依頼をすれば回収率は99%くらいになるのではないですか。
事務局 長寿政策課係長 吉野	事業者調査やケアマネジャー調査については、書面によるやりとりだけでなく、メール等も検討したいと思っています。

3 報告事項

(1) 令和4年度第1回守山市地域包括支援センター運営協議会での会議内容の報告について

資料2

【事務局説明 地域包括支援センター 大寄係長】

【質疑応答】

なし

4 閉会

＜西田介護保険課長より閉会＞

(午後4時 閉会)